① 和気清麻呂の三国川（神崎川）・淀川治水事業

南　秀雄（大阪市文化財協会）

ときの摂津大夫・和気清麻呂（わけのきよまろ）のもと、延暦４年（785）に淀川から神崎川に通じた三国川開削は、淀川流域の治水・利水と、以降の大阪の景観・都市形成に大きな影響をあたえました。近年の自然地理学・地質学による地形復元や考古学の発掘成果を活かし、３年後の河内川（大和川）付替え計画とあわせ、この実態にせまります。

② 難波の考古学と万葉集

杉本厚典（大阪歴史博物館）

日本最古の歌集『万葉集』。万葉集は奈良や東国に次いで大阪の歌が多く、中でも古代の宮殿や港のあった難波は、万葉人のもう一つのふるさとと言えます。官人や遣唐使・遣新羅使、防人、難波人らによって詠まれた歌は、当時の人々の暮らしや想いを我々に伝えています。万葉集に詠まれた古代難波を、発掘調査で明らかにされた宮殿や建物跡、当時の暮らしや儀礼で用いられた様々な考古資料を手がかりにして明らかにします。今年秋の大阪歴史博物館『難波をうたう－万葉集と考古学－』の展示のプレ講演会です。

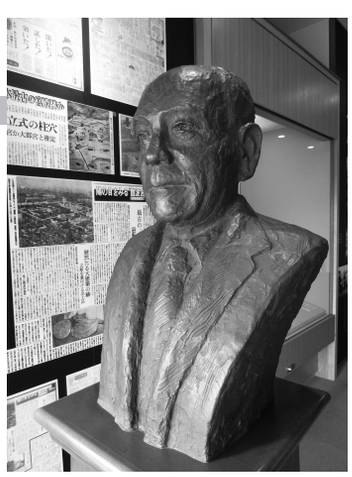
【予告】 特別展「難波をうたう ー万葉集と考古学ー」

会　　期：令和３年10月２日（土）～12月５日（日）
火曜日休館　※11月23日は開館、11月24日は休館
開館時間：午前９時30分～午後５時（会期中の金曜日は午後８時まで）
※入館は閉館の30分前まで
会　　場：大阪歴史博物館　６階　特別展示室
主　　催：大阪歴史博物館・（一財）大阪市文化財協会

10階常設展示室

「難波宮を掘る」コーナー

難波宮は 1950 年代以降の都市開発により破壊・消滅の危機にさらされましたが、山根徳太郎博士の「遺跡は一度こわしたら再びつくれない」という強い信念と多くの市民の力により守られました。
このコーナーでは、難波宮の研究や保存運動にすべてをささげた博士の生涯や、発見のきっかけとなった古代瓦など、難波宮の発掘調査・研究史にかかわる資料を展示しています。この機会にぜひご観覧ください。



山根徳太郎博士胸像